

第23週の発生動向(2007/6/4~2007/6/10)

1. 咽頭結膜熱については、上十三保健所管内において第14週から、むつ保健所管内では第16週から、**警報**が継続しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、弘前保健所管内において、第19週から**警報**が継続しています。
3. インフルエンザについては、減少傾向にあります。上十三保健所では、報告数が多いので注意が必要です。型別については、迅速診断キットにより、弘前保健所管内でA型:13人、むつ保健所管内ではB型:1人が報告されています。

第23週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		保健所名	定点数				
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点		数	定点	小児科	内科	眼科
(100) インフルエンザ	7	0.50	13	0.87					45	5.00	1	0.17	66	1.02	-31	2	1.00	5	0.42	インフルエンザ (内科+小児科)					
(72) RSウイルス感染症			1	0.11									1	0.02	-2										
(73) 咽頭結膜熱	13	1.44	7	0.78	1	0.11			27	4.50	5	1.25	53	1.26	17	3	3.00	10	1.25						
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	1.78	29	3.22	4	0.44			12	2.00	8	2.00	69	1.64	-26	2	2.00	14	1.75						
(75) 感染性胃腸炎	42	4.67	48	5.33	6	0.67	16	3.20	7	1.17	17	4.25	136	3.24	16	12	12.00	30	3.75						
(76) 水痘	5	0.56	7	0.78	12	1.33	5	1.00	6	1.00	11	2.75	46	1.10	-13			5	0.63						
(77) 手足口病	1	0.11							5	0.83			6	0.14	6	1	1.00								
(78) 伝染性紅斑	1	0.11	2	0.22	1	0.11	2	0.40	3	0.50	1	0.25	10	0.24	-8			1	0.13						
(79) 突発性発疹	9	1.00	7	0.78	9	1.00	1	0.20	4	0.67	6	1.50	36	0.86	15			9	1.13						
(80) 百日咳															0										
(81) 風しん															0										
(82) ヘルパンギーナ	5	0.56	26	2.89			1	0.20					32	0.76	23			5	0.63						
(83) 麻疹(成人を除く)															0										
(84) 流行性耳下腺炎	7	0.78	1	0.11	14	1.56	1	0.20	2	0.33			25	0.60	-20			7	0.88						
(86) 急性出血性結膜炎															0										
(87) 流行性角結膜炎	5	2.50			1	0.50	3	3.00					9	0.82	2			5	2.50						
(95) マイコプラズマ肺炎					2	2.00					5	5.00	7	1.17	0										
東地方																					2	1	1	0	0
弘前																					15	9	6	3	1
八戸																					14	9	5	2	1
五所川原																					7	5	2	1	1
上十三																					9	6	3	2	1
むつ																					6	4	2	1	1
青森市																				12	8	4	2	1	
合計																				65	42	23	11	6	

■ は警報 ■ は注意報

「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (19年計には、今回届出された人数を含む) 報告数は速報値です。

- (9) 結核(二類全数把握疾患) 青森市保健所: 3人 (19年計: 48人)
- (10) 細菌性赤痢(二類全数把握疾患) 弘前保健所: 1人 (19年計: 2人)

感染症の窓

百日咳



1 6週(4/16~4/22) 1 7週~ 2 1週 2 2週(5/28~6/3) 2 3週(6/4~6/10)

図 国内における警報マップ(平成19年第16週~第23週まで)

2007年5月、香川大学において、本疾患による集団感染があり、休講措置がとられました。感染症発生動向調査によると、第16週(4/16~4/22)は徳島県において、第22週(5/28~6/3)は滋賀県において、第23週は、東京都、兵庫県、香川県、徳島県において警報を発令する保健所がありました(図)。本疾患は、乳幼児へのワクチン接種により、患者報告数が減少してきました。しかし、未だに発生は見られているため、今後も注意が必要です。また、年長児や成人では、特有の咳(けいれん性の咳発作)が少ないため診断や治療が遅れ、乳幼児への感染源となることがあります。感染すると、**乳幼児では重症化することもあり**、感染を防止することが大切です。1カ月以上咳が長引く等の症状がある場合には、医療機関に相談しましょう。